

【事務局】唐戸町4-1 カラトピア5階 ☎083-250-8380 月・水・金 9時～14時

地域づくり部会報 第13号 特集号

・もっと知ろう
・伝えよう
・つながろう

【街のトピックス】 下関最古の幼稚園 第一幼稚園

第一幼稚園の卒園者は戦後の復園以来6796名(令和3年度まで)おられます。今回は地域のお宝として下関最古の第一幼稚園の歴史に想いを馳せてみたいと思います。

現在の幼稚園は、新町4丁目交差点から棕野方面を望む道路左側にあります。園庭は広く、樹木も多く環境良好な場所です。時代の変遷により園児数も減少し寂しい限りですが、園児たちの元気な声は庭いっぱい響きわたっています。

この幼稚園の歴史は、「下関市」がまだ「赤間関(あかまがせき)市」であった明治32(1899)年11月15日、当時の下関で最初(*)の市立幼稚園として開設された「赤間関市立赤間関幼稚園」に始まります。場所は、現在の田中町桃崎病院の横、五穀神社の鳥居に向って右側(北隣)一帯約250坪の敷地にあった市立赤間関裁縫補修女学校(現、県立下関南高等学校の前身)の付設幼稚園として、その敷地内に開園しました。初代の園長は吉川コハル先生で、保母を兼任され17年の長きにわたり勤められました。

(*) 参考：赤間関幼稚園開園以前に、豊浦郡長府村立豊浦(とよら)幼稚園が明治25(1892)年に開園しています。

その場所にあった菁莪(せいが)尋常小学校(第1期)は、同年4月に東南部(ひがしなべ)町の文関(ぶんかん)尋常小学校(第1期。場所は現、市役所の西側)に統合され廃校となり、8月に女学校が阿弥陀寺町からその跡に移ってきました。引き継いだ菁莪校舎は、土蔵か酒倉を改造した一民家の古い二階建て。「体操場なども名ばかりで猫の額程の狭い空地、テニスのネット一つ張ったら、あとの人は隅に小さくなって眺めているより仕方なく、少し高い球を出したらすぐ隣の五穀神社の境内にとんで行ってしまいます。フットボール一つ蹴られません」と綴った女学生の回想記事によれば、幼稚園と共用したと察せられる狭い校庭に、園児の砂場や遊具は思い描き難く、女学校と並んで建っていた園舎の規模も窺い知れます。

市立幼稚園の開設を加速させたのは、同年6月28日の文部省令「幼稚園保育及設備規定」と思われます。規定には「幼稚園は満3歳より小学校に就学するまでの幼児を保育する所」と示され、保育時数は食事時間を含む1日5時間以内、保母1人が保育する幼児数は40人以内、保育項目は「遊嬉・唱歌・談話・手技」、保育室は幼児4人につき(遊園は1人につき)1坪以上などと定めたこの令達から三月を経た10月3日、赤間関幼稚園設定が議決され、翌月に開園します。赤間関幼稚園の園児数：初年度末 60名(男38名・女22名)。33(1900)年度末 60名(男32名・女28名)、保母2名。

女学校は翌33年10月に赤間関実業補習女学校と改まり、再び38(1905)年4月に改組し下関高等女学校となつて、41(1908)年3月18日、高尾(現、春日町の水道局付近)に建った新校舎に移りました。ここに敷地の全てが園地となり、同年幼稚園舎が新築されました。なお園名は、35(1902)年の市名変更に伴い下関幼稚園と改称し、のち42(1909)年の第二・第三下関幼稚園開設により、園名に「第一」を冠しました。第一下関幼稚園は昭和戦前の年次統計によると、保母3または4名、園児数は100～130名前後(男女ほぼ同数)、組数4で運営されていましたが、昭和20(1945)年7月2日の空襲で焼失。そのため、開園以降の田中町時代をたどる記録は残っていません。焼失前の園舎の写真が僅かに伝わり、戦前の姿が偲べます。



明治41(1908)年に建った田中町の園舎

昭和8(1933)年
卒園写真



昭和戦前
雪の日の園舎

石段を上がって登園。
園門の前は、当時の電車通り。
大小の門柱(合計4基)は、
五穀神社に移されて現存します。

その後3年弱の空白があり、保護者の熱い要望で昭和23(1948)年4月1日に貴船町(現在の新町ストアー東南側付近)に市立第一下関幼稚園として復園しました。戦後の荒廃の中、旧陸軍営所の兵舎を利用して開園したものです。園長先生の回顧録に、復園当初の様子が記されています。終戦後の大変なご苦労が窺えます。

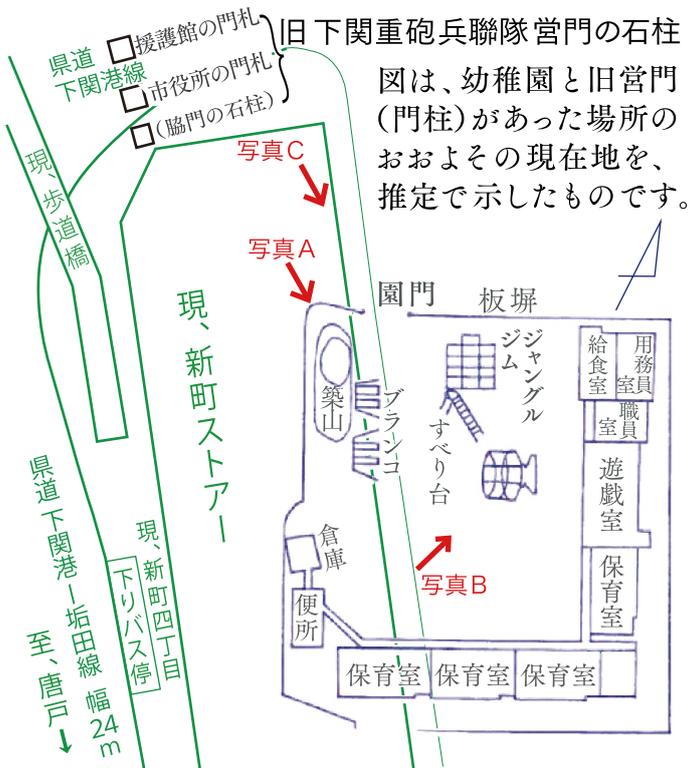
写真A 第一下関幼稚園 全景 (昭和32年度 卒園アルバム)



写真B みんなと一緒に朝の体操 (昭和34年頃)



遊具は、左下の見取り図とは異なります



貴船町の営所跡地に復園した 第一下関幼稚園の見取り図

この一帯には戦時下、陸軍の西部第74部隊があり、幼稚園が復園当時、園の東側の広大な軍用地跡には、「山口県下関援護館」「下関市役所」「下関市消防本部」が置かれていて(市役所の仮本庁舎は現、社会福祉センター付近に昭和21(1946)年12月から約8年間)、この地が戦後復興の拠点になっていました。

写真C 新園舎(現在地)に椅子を抱えて運ぶ園児たち 昭和35年12月23日 園舎にお別れ、お引越し



新園舎(現在地)は、旧園舎から直線距離で80m位

【徳永寿美子著『生甲斐への旅』より】

戦災で見るかげもなく焼けた第一幼稚園は、地域の父母の熱心な要望で、戦時中の仮兵舎であつたバラック建てのまま再開園したのである。机や椅子は中学校からの借り物で大きくて、とても使いものにならない。ピアノもなければ、オルガンもない。ただあるのは間仕切りもない長広い部屋が一つだけである。広い広い運動場は兵隊の訓練場で大きな石や木の切株がそのままである。園児が毎日つまづいてころぶ。若い二人の先生を相手に楽器一つない幼稚園で、自分の声をたよりに歌を教えれば、だんだん調子がくるって来る。紙芝居を借り歩いて園児に見せる。兵隊が使用していた便所はただ楕円形の穴があけてあるだけである。子供たちがこわがるので一ぺん一ぺんつれて行かねばならず、屋根は雨が降るたびに方々が雨洩りするので園児をつれてあちらによけこちらはよけ、これではまるで昔の孤児院のようである。

園児が帰ると鍬を借りて運動場の石や木の根をのけるのであるが、掘っても掘っても深く埋もれていて女の子の手では大変である。見かねて近所の人や園児の父母がつるはしを持って来て手伝って下さるようになった。

市当局にもお百度を踏んで色々お願いするが、義務教育の六三制発足後日が浅く、市は小中学校だけで、手一ぱいである。幼稚園は後まわしにされる。私は設備の不足は教師の熱意と愛情で補うよりないと思い、教師三人でよく話しあった。

【参考：復興第1回の卒園者数は、男29名、女36名、計65名。3学級】

昭和36(1961)年1月8日、3度目の園地(現在地)に建った新園舎での新学期が始まりました。昭和38(1963)年度の途中で、園名が「下関市立第一下関幼稚園」から「下関市立第一幼稚園」に変更されています(第二～第四下関幼稚園も同様に同時変更)、当時の資料が見つからず検証ができていません。旧市街地内に、第一から第五まで設置された市立幼稚園の中で、現在残っていますのは第一幼稚園のみとなり、開園から現在まで123年の時を刻んでいます(終戦の前後2年9ヶ月は休園)。伝わっている資料などから、沿革の要旨を抜粋します。

沿革概要

明治32(1899)年11月15日	赤間関幼稚園として関後地村(せきうしろじむら)中島(現、田中町)に創立
昭和20(1945)年7月2日	空襲により、園舎(明治41(1908)年に建造)を焼失
昭和23(1948)年4月1日	貴船町の現、新町ストアの東南付近に復園(3学級)。10月、給食開始
昭和23(1948)年11月	王江小学校の倉庫を移転し2教室増築
昭和36(1961)年1月8日	新園舎第一期工事完了、現在の地へ移転
昭和37(1962)年11月15日	創立60年記念式典挙行
昭和46(1971)年11月	在席園児8学級、319名の最高記録。
	昭和40(1965)年代から徐々に増え続け、この時期入園の選抜試験も行われ、入園できなかった幼児もあったとのこと。
昭和47(1972)年11月15日	創立70年記念式典挙行
昭和49(1974)年8月9日	南側200坪園地拡張(ツバメ鉱油移転跡地)
昭和50(1975)年4月	西側の園地拡張(派出所の解体跡地)
昭和54(1979)年11月15日	創立80年記念式典挙行
平成元(1989)年11月11日	創立90年記念式典挙行(『あゆみ90周年』の記念誌発行)
平成11(1999)年11月20日	創立100年記念式典挙行(『百年を祝って』の記念誌発行)

かつて在席園児数は百人を維持しており、地域の元気の源になっていました。園訓の「よくみる、よくきく、よくする」の通り、園児は伸び伸び育ち、巣立ち成長していきました。今この幼稚園は園児の減少で存続の危機に直面しています。寂しい限りです。何とか存続の工夫はないものかと願う次第です。また、仮に存続が叶うことができない実情であれば、地域のお宝として「伝えよう・つながろう」は大切なことだと思いますので、下関最古の幼稚園の歴史を後世に残すためにも、その証を設置することを切に希望する次第です。

平面図



昭和38(1963)年頃



昭和63(1988)年頃
第一幼稚園(現在地)の見取り図



今回の特集号の発行に際し、第一幼稚園に保存されていた貴重な資料・写真の閲覧、複写等について第一幼稚園はじめ各方面のご協力、ご支援を頂きましたこと誌面をお借りし感謝御礼申し上げます。なお、写真は『あゆみ90周年』(第一幼稚園発行記念誌)、図版は『下関市幼稚園史』(下関中央図書館所蔵)から一部改変して転載させて頂きました。

感想募集致します。閉園は時代のいたずらと言え寂しいものですが、第一幼稚園を卒園された方は、ひとしお感慨深いものがあると思います。つたない記事でありましたが、思い出、お気づき点、ご感想等がございましたら、いつでも事務局までご一報いただければ有り難く存じます。

【事務局】唐戸町4-1 カラトピア5階 ☎083-250-8380 月・水・金 9時～14時